

ヒヤリハット事例

車椅子を操作中、スロープの角度が急で後方に転倒しかけた	
種類	身体的危険：転倒による怪我の可能性が高く、特に高齢者や身体が不自由な方にとっては重大な事故に繋がりがねない。
場面	公共施設や自宅のスロープを利用中。スロープの設置環境が適切でない場所（急勾配、手すり未設置など）。
ヒヤリハットの状況	車椅子を操作している際、急な角度のスロープを上がろうとしたところ、後方に転倒しそうになり、非常に危険な状況に陥った。
 <p>© 2024 mcon7.com</p>	
原因	スロープの角度が車椅子使用者にとって急すぎた。 手すりがなく、補助する手段がなかった。 スロープの幅が狭く、車椅子が安定しなかった。
兆候	スロープを上がる際に車椅子の後輪が浮きそうになる。 使用者がスロープで操作に苦労し、途中で止まることが多い。 スロープに補助設備（手すりや滑り止め）がない。
予防と対策	勾配を国の基準（例: 1:12以下）に合わせて設置する。 スロープ幅を十分に確保し、車椅子が安全に通行可能な幅を維持する（例: 幅90cm以上）。
改善点と実行アクション	勾配の緩和：急勾配を改善し、緩やかなスロープに変更する。 設備の安全強化：手すりを必ず設置し、滑り止めや段差の解消を徹底する。